スペシャルニーズのある子ども（CYSHCN）を貧困・ジェンダー・健康の視点から包摂する防災プログラムの開発

概要：発達障害や虐待や貧困などにより配慮が必要な子ども、Children and youth with special health care needs（CYSHCN）は災害避難の困難や不適応が予測され、米国小児科学会は2023年1月にCYSHCN防災ガイドラインを公表した。わが国でも児童養護施設のBCP（事業継続計画）の策定努力義務が2023年4月に開始された。CYSHCNは医療の必要性が高く、対人距離感覚が独特で性被害に遭いやすく、家庭での歯みがき習慣が形成されていない恐れがある。CYSHCNを取り残さないための包括的な防災プログラムを開発する。

目的：災害時に避難所に入れない、性被害の懸念がある、歯みがき習慣が崩れやすい、思春期以降の健康課題に移行しやすいことが懸念されるCYSHCNを取り残さないために、本人・親・支援者のニーズを踏まえた防災プログラムを開発する。本人の感覚評価、家庭教育、BCPのマニュアル策定、歯科と在宅医療の連携、子ども食堂での健康教育により、インクルーシブな国土強靭化に貢献し、カーボンニュートラルを達成する。

目的とするSDGsのゴール

- 1、貧困をなくそう✓
- 3、すべての人に健康と福祉を✓
- 5、ジェンダー平等を実現しよう✓
- 13、気候変動に具体的な対策を✓

図1　子ども食堂での健康教育イメージ図

研究統括	発達障害児の対人距離感覚評価システム	発達障害児の災害時性被害予防プログラム	児童養護施設のカーボンニュートラルBCP策定	カーボンニュートラル減災歯科保健プログラム開発
大河内彩子	松永信智	秋月百合	中村五月	椿誠
生命科学研究部(保健学系)	先端科学研究部	生命科学研究部(保健学系)	生命科学研究部(保健学系)	熊本県歯科医師会

期待される効果・成果：発達障害児の対人距離感覚の特異性が指摘されているが、測定を伴う研究は稀である。VRとアバターを用いた測定システムを開発することで実験環境に近く侵襲が少ない環境で実測を行うことができ、健常児との差異を明確にすることで性教育プログラムの開発につなげられる。発達障害児の特性理解を踏まえた認知行動療法を前向き子育てプログラムをトリプルPを基盤として開発し、親に研修を行うことで、子どもの問題行動や不適応を予防できる。児童養護施設のBCP策定のマニュアル公開によってBCP策定が促進されれば、防災につながる。災害時の医療的ケア児の口腔衛生保持に必要なネットワークを熊本県歯科医師会・在宅医療・看護・介護との連携により構築する。子ども食堂でSDGs歯ブラシを用いた健康教育を行い、未受診や口腔崩壊などの潜在的課題を発見する。県や国の子ども・歯科保健・SDGs関連予算獲得につなげる。

図2、3 イメージ画像、斉藤青葉の「VR 空間における触れる前インタラクション：対接触前距離の計測とその応用」より一部改変

望ましい未来像（ビジョン）：CYSHCNが災害時に経験する混乱を減らし、災害後のメンタルヘルスや歯科保健上の課題を予防し、成人後のwell-beingを促進する。

当該取組の意義・内容等：発達障害児の感覚特異性や親のニーズを調査により把握し、多様な性の現状を明確にした上でプログラム策定ができる。わが国におけるCYSHCNの防災ガイドライン策定に生かせる。VRによる測定では性別と年齢の異なる複数アバターを接近条件を変えて設定し、かつ瞳孔径の変化を調査することで発達障害児でも気持ちの見える化を行う。性教育プログラムは海外の研究を参考にペアレントトレーニングプログラムを開発する。医療的ケア児や貧困家庭の子どもの減災歯科保健プログラムを開発する。

新規価値創造性：メタバース空間でのパーソナルスペース解析は喫緊の課題であるが、発達障害児では開発